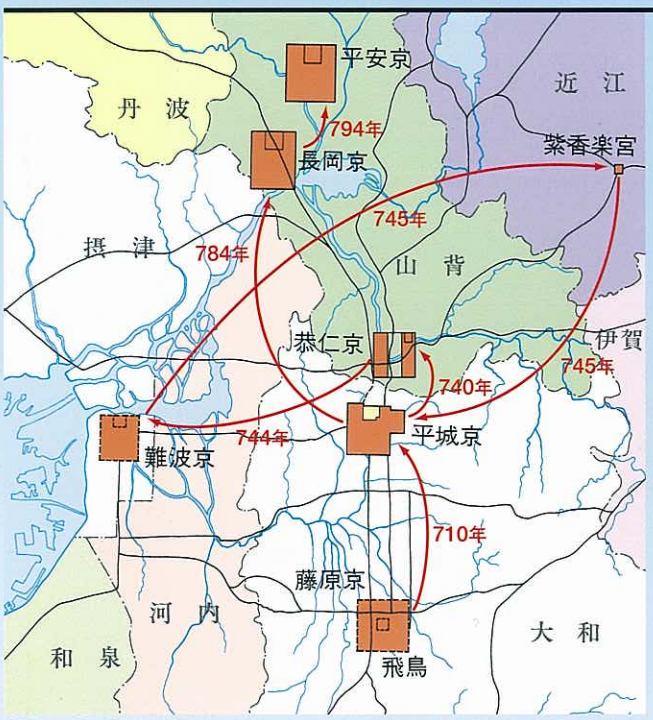
世界文化遺産

特別史跡

平城宮跡

奈良文化財研究所

平城京と平城宮



転々とする都

平城京

和銅３年（710）、奈良盆地の北端に造られた平城京が新しい都と定められました。元明天皇が律令制にもとづいた政治をおこなう中心地として、飛鳥に近い藤原京から都を移したのです。中国・唐の長安城などを模範とした都をつくることは、当時の東アジアの中で国の威厳を示す意味もありました。

その後、聖武天皇は740年から745年まで、都を転々と移しますが、745年には再び平城京を都としました。そして、長岡京に都が移る784年までのあいだ、奈良の地が都として栄えたのです。この時期を奈良時代といいます。

平城京のメインストリートは、京の南門である羅城門から北にまっすぐにのびる幅約74ｍの朱雀大路です。朱雀大路をはさんで西側を右京、東側を左京といいます。左京には北の方で東にさらに張り出しがありました。平城京は大小の直線道路によって、碁盤の目のように整然と区画された宅地にわけられています。平城京の住民は４～５万人とも10万人ともいわれますが、天皇、皇族や貴族はごく少数の百数十人程度で、大多数は下級役人や一般庶民たちでした。

平城京の条坊

平城宮

平城京・朱雀大路の北端には朱雀門がそびえていました。朱雀門をくぐると天皇の住居であり、政治や国家的儀式をおこなう平城宮です。平城宮の周囲には大垣がめぐり、朱雀門をはじめ12の門がありました。

平城宮の内部にはいくつかの区画があります。政治・儀式の場である大極殿・朝堂院、天皇の住まいである内裏、役所の日常的業務をおこなう曹司、宴会をおこなう庭園などです。そのなかでも政治・儀式の場は、都が一時離れた時期を境にして、奈良時代の前半と後半で大きな変化がありました。奈良時代前半に、朱雀門の真北にあった大極殿（通称、第一次大極殿）が、奈良時代後半になると東側の区画で新たに建てられたのです（通称、第二次大極殿）。これに対して、内裏は、奈良時代を通じて同じ場所にありました。

これらの事実は、40年以上におよぶ発掘調査によってわかってきたことです。このうち、ほぼ正方形と考えられてきた平城宮が、じつは東部に張り出し部分をもつことがわかったことや、その隅に奈良時代の庭園を発見したことなどは、発掘調査による大きな成果のひとつといえるでしょう。

奈良時代前半の平城宮

奈良時代後半の平城宮

復原した朱雀門　朱雀大路に向かって開く平城宮の正門。元日や外国使節の送迎の際に儀式がおこなわれたほか、都の男女が集まって恋の歌をかけ合うのを天皇が見るというイベントもここでおこなわれました。

平城宮の内側をのぞいてみると

第一次大極殿院・東楼の遺構　掘立柱と礎石を混用する特異な建物跡で、柱穴も大きく、楼閣建築と考えています。平城宮最大の柱（径約75㎝）が出土しました。

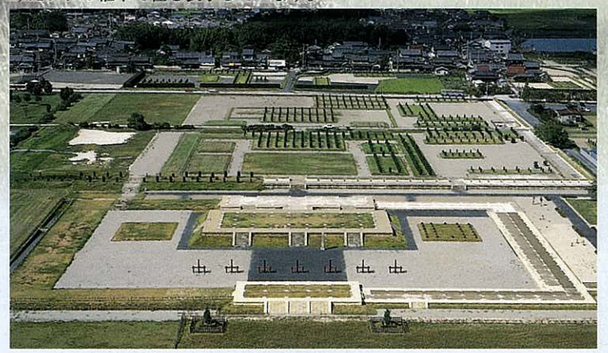
兵部省の整備　武官人事を担当していた役所。現代の道路が中央を横切っていますが、建物の柱や壁を、約1mほどたちあげる半立体復原という手法を用いて整備しました。

復原した東院庭園　天皇や貴族の宴遊の場を再現。建物は遺構にもとづいて復原し、庭園は石組など遺構そのものを見せながら整備しています。

発掘した東院庭園　平城宮東南隅で発掘された奈良時代の庭園跡。池周囲の建物や橋のほか、池底の玉石敷、高さ1.2mの立石をおく豪快な築山石組などがみつかりました。

第二次大極殿の遺構　「ダイコクの芝」とよばれて土壇が残っていたため、明治以降、大極殿跡と考えられてきました。ここに発掘のメスが入ったのは、1978年のことです。

第二次大極殿と内裏の整備　第二次大極殿とその周辺にある礎石建物は基壇を復原、内裏の掘立柱建物は、円柱状に刈りあげたツゲの植木で柱を表示しています。



造酒司の井戸　天皇や役人のための酒を造る役所にあった井戸で、その上に六角形の上屋が建ちます。1つの柱根と5つの柱穴がわかりますか？

平城宮略年表

694年（持統8）	藤原宮に都を移す。
701年（大宝1）	大宝律令を制定する。
707年（慶雲4）	元明天皇（女帝）が即位する。
708年（和銅1）	和同開珎を発行する。
710年（和銅3）	平城京に都を移す。
715年（霊亀1）	元正天皇（女帝）が即位する。
724年（神亀1）	聖武天皇が即位する。
729年（天平1）	長屋王の変。
740年（天平12）	藤原広嗣の乱を機に恭仁宮に都を移す。
742年（天平14）	紫香楽宮をつくる。
744年（天平16）	難波宮を都とする。
745年（天平17）	紫香楽宮を都とする。 平城京に都を戻す。
749年（天平勝宝1）	孝謙天皇（女帝）が即位する。
752年（天平勝宝4）	東大寺で大仏の開眼供養が行われる。
758年（天平宝字2）	淳仁天皇が即位する。
764年（天平宝字8）	藤原仲麻呂の乱。淳仁天皇に代わり孝謙上皇が再び称徳天皇（女帝）として即位する。
770年（宝亀1）	天智天皇の孫の光仁天皇が即位する。
781年（天応1）	桓武天皇が即位する。
784年（延暦3）	長岡京に都を移す。
810年（弘仁1）	平城上皇、平城遷都を計画するが失敗する（薬子の変）。
864年（貞観6）	このころ、平城旧京の道路は田畑となる。

第一次大極殿院1/100模型　大極殿は天皇の即位、元日の朝賀など国家的儀式のときに天皇の座がおかれる建物です。回廊で囲まれた正面には重層の閤門がひらき、その両側には東楼・西楼とよんでいる楼閣があったと考えています。臣下はさらにその前にある広場に立ち並んで天皇を拝したのです。

※本文中の◎は、平城京西隆寺跡から出土した銀製帯先金具をモチーフとしたものです（縮尺約1/4）。

出土品が語る人びとの営み

平城宮の建設

平城宮には数多くの建物がありましたが、造営のためには莫大な資材が必要でした。発掘によって瓦、木材、石材など、建設に使われたものがたくさん見つかっています。こうした出土品は、建物の姿を推定する手がかりになるだけでなく、どのように資材を調達したかを考える材料にもなるのです。

鬼瓦　屋根の棟（大棟・降棟）の先端をおおう瓦で、魔よけの意味が込められていました。獣面のほか鳳凰の文様をかたどったものもあります。

人びとの生活

天皇をはじめ、貴族や下級役人が都で暮らしていくためには、日々の生活に必要な物資を地方から税などとして運んでこなければなりませんでした。出土品の中には、土器などのように列島の各地からもってきたことがわかるものもあります。出土する荷札の木簡は、どの地方から何が都に運ばれたのかを知るかっこうの手がかりとなるのです。

役人の仕事机　筆、墨、硯、水差しのほか、木簡の文字を訂正するときに表面を削るための刀子（ナイフ）なども使われていました。

食器と台所用品　箸やさじのほか、わんや皿などの食器、壷・甕などの貯蔵用具、かまどなどの炊事用具が出土しています。

役人の仕事

律令制のもとでは、太政官以下の多くの役所がありました。役所では、現代と同様に書類によって日々の事務が処理されました。当時は紙のほかに、木の札（木簡）に書類や帳簿を書きつけることも多く、発掘調査の際にこうした木簡がたくさん出土します。

①伊豆国から運ばれたカツオの荷札

②長屋王の邸宅に運ばれたアワビの荷札

さまざまな木簡　③造酒司が職員に対して出した呼び出し状

※イラストは早川和子氏による

保存と調査のあゆみ

保存運動と調査研究

都が長岡京に移った後、一時は平城京に都を戻そうという動きもありましたが、時は流れて都の跡は土の中に埋もれていきました。江戸時代の末になって、北浦定政による平城京の復原研究がおこなわれて、明治おわり頃の関野貞、喜田貞吉などによるすぐれた研究の結果、奈良時代の都の姿が次第にわかってきたのです。

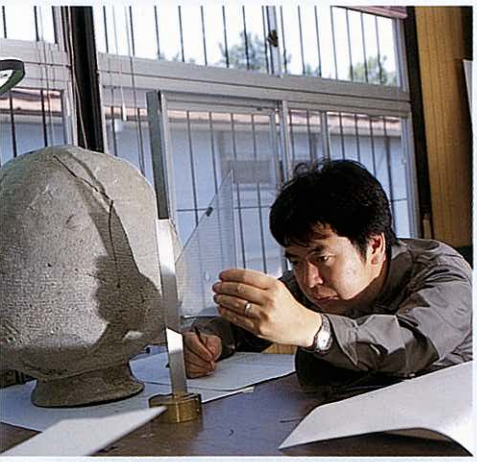
それとともに、明治から大正時代にかけての棚田嘉十郎や溝辺文四郎をはじめとして、現在も続く地元の人びとの協力、さらに戦後の国民的な運動にも支えられて、平城宮跡は保存されてきました。現在は国の特別史跡に指定され、奈良国立文化財研究所が継続的な調査・研究をおこなっています。

1852年 北浦定政の「平城宮大内裏跡坪割之図」などが完成。
1922年 平城宮大極殿朝堂院跡が史跡に指定。
1952年 平城宮跡が特別史跡に指定。
1959年 奈良国立文化財研究所による継続的発掘調査の開始。
1961年 木簡出土第一号。
宮域内での鉄道検車区建設計画が国民的世論により中止。
1964年 平城宮の東側に張り出し部を発見。国道24号線バイパスの計画を変更し、宮跡を避けて東へ迂回。
1977年「平城遺跡博物館基本構想」に基づいて整備事業が本格化。
1998年 朱雀門、東院庭園の復原がほぼ完成。
平城宮跡を含む「古都奈良の文化財」がユネスコの世界遺産に登録。

復原と公開

平城宮跡では、発掘の成果をよりわかりやすく知っていただくために、さまざまな手法で遺跡の整備を進めています。遺構展示館では発掘でみつけた遺構の実物を見ることもできます。

また、遺構を埋め戻して保存し、その上部に型どりした遺構模型を展示する方法や、盛り土と植栽で建物の規模と柱の位置を示す方法、建物の基壇や壁の一部までを復原する方法なども用いています。さらに、朱雀門や東院庭園では、建物や庭そのものを当時の姿に再現するなど、現在も「平城遺跡博物館基本構想」にもとづいた野外遺跡博物館をめざして整備が進んでします。



土器の実測

年輪幅の計測

遺物の研究と保存

発掘された遺物を正しく理解するためには、まず、実測、写真撮影などにより、正確な記録を作ることが必要です。それとともに、科学的な方法をもちいて遺物の材質を調べたり、出土した木材の年輪幅から、その木の伐採された年代を判定したりする研究も進められています。

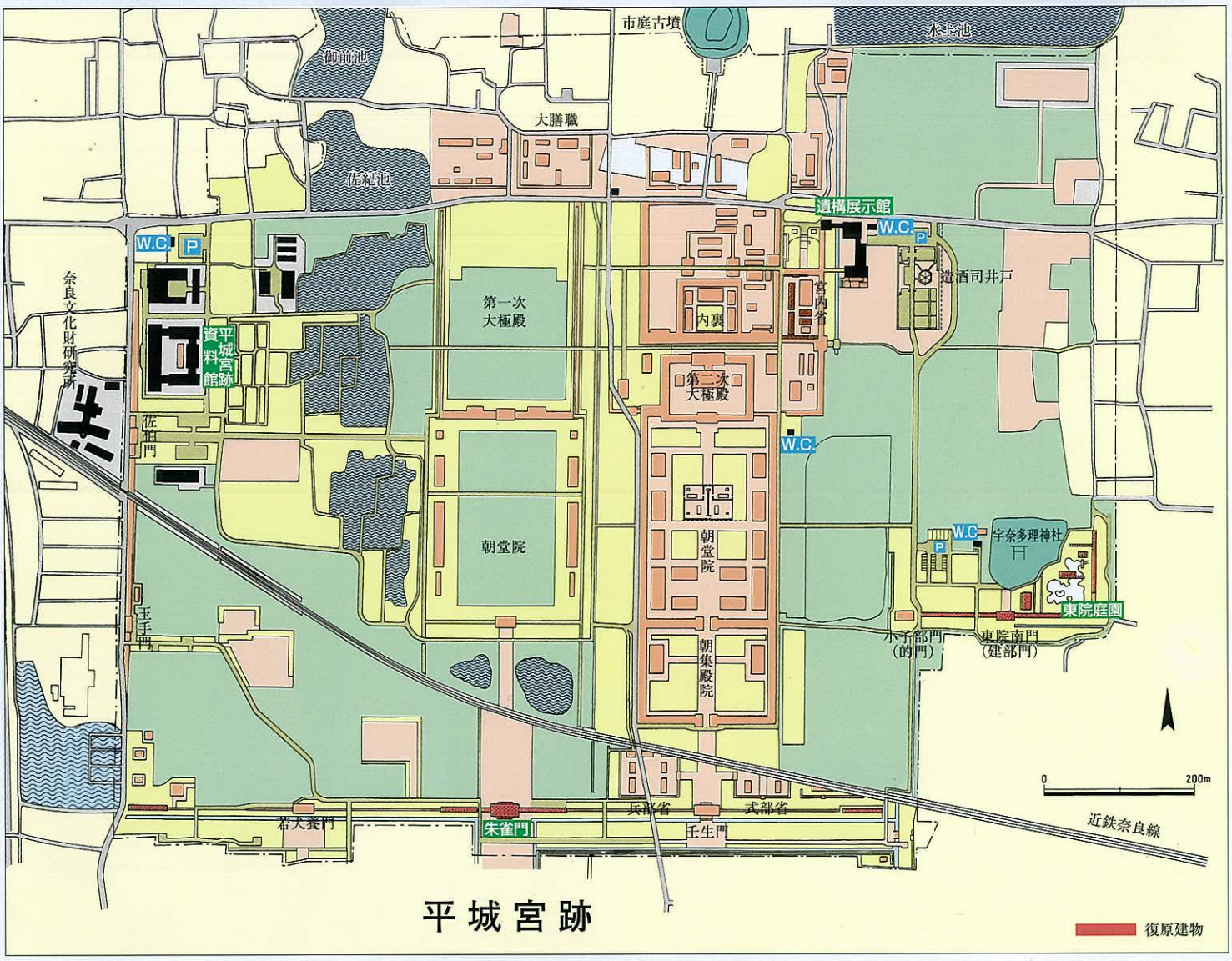
また、とくに木や金属できた遺物は壊れやすいので、薬品などを使って長く保存できるようにします。このように、科学の力を借りながら、出土遺物を研究して、奈良時代の歴史をあきらかにするとともに、これらを後の時代まで保存していく努力が続きます。

瓦の拓本取り

くりぬき井戸の保存処理

平城宮跡資料館
発掘で出土したさまざまな遺物や、建物の復原模型を展示しながら、平城宮についてわかりやすく説明しています。

遺構展示館
発掘で見つかった遺構をそのまま見ることができるほか、第一次大極殿や内裏の復原模型を展示しています。



奈良文化財研究所　施設案内

平城宮跡資料館　近鉄大和西大寺駅から徒歩10分

遺構展示館（覆屋）　JR奈良駅・近鉄奈良駅から近鉄大和西大寺駅行、または近鉄大和西大寺駅からJR奈良駅方面行バスにて、「平城宮跡」停留所下車すぐ。

東院庭園　「平城宮跡」バス停留所下車、徒歩10分。

朱雀門　近鉄大和西大寺駅から徒歩20分。
「平城宮跡」バス停留所下車、徒歩20分。
またはJR奈良駅・近鉄奈良駅方面から「二条大路南四丁目」バス停留所下車、徒歩3分。

各施設とも

- 入場無料
- 月曜日（月曜が祝日の際はその翌日）、年末年始休館。
- 開館時間　9:00～16:30（入場は16:00まで）

（交通図）

発行：一刷1999年3月
二刷2004年12月
三刷2006年11月

世界文化遺産 特別史跡　平城宮跡

〒630-8577　奈良市二条町2-9-1
奈良文化財研究所
TEL 0742-30-6753　FAX 0742-30-6750
インターネットホームページ　http://www.nabunken.jp